

令和5年度 第5回 旭川市行財政改革推進委員会 会議録(要旨)

1 日 時 令和5年7月31日(月) 10:00~11:25

2 場 所 旭川市総合庁舎6階入札室及び同2階第2応接室

3 出席者 長谷川(芳)会長, 佐々木委員, 杉山委員, 長谷川(愛)委員, 靱岡委員
(事務局)中村副市長, 浅利行財政改革推進部長
行財政改革推進部 行政改革課 梶山課長, 及川課長補佐, 水沢
公共施設マネジメント課 門脇課長, 佐々木課長補佐, 清水主査, 石橋主査
総合政策部 財政課 小澤課長, 万年課長補佐

4 公開・非公開の別 公開

5 会議資料

次第

資料 1_答申書(令和5年度行政評価の実施について)

6 議事要旨

(1) 開会

(2) 令和5年度行政評価(答申)について

委員会において資料のとおり決定し, 長谷川会長から中村副市長に答申書(令和5年度行政評価の実施について)を交付した。また, 各委員から口頭で述べられた意見等は次のとおり。

【委員】

地方自治体は, お金を使って市民サービスを実施する。多くの予算を使えば理想的だが, 財政は苦しい。既存の施策や公共建築物をどうしていくのかを慎重に審議し, これからを担う若い人たちに負担を残さないように施策等を進めてほしい。

【委員】

各課の職員は熱心であり, 現課として担当事業等にしっかり取り組もうという姿勢が強かった。一方で, 他市と比べても職員の時間外勤務や休日勤務が多いであろうことが分かった。答申書P5の「第3 全般的事項・共通事項に関する評価(総論)」の冒頭に「1. 時間外勤務の削減と働き方の柔軟な選択」を入れたのは, テレワークやフレックスタイムなどの柔軟な働き方を取り入れることが重要だからだ。職員の負担が減り, 費用対効果も高まるので, 職員の働き方をどうにか変えてほしい。

【委員】

答申書には, 率直に述べた意見がまとまっている。ヒアリングで市の事務事業を知る中で, こんなに紙を使っているのかと驚いた。ごみ減量の取組と矛盾するとも感じた。オンライン化とペーパーレス化をしっかりと進めてほしい。

【委員】

小中学校の統廃合など子どもに関わるテーマについて勉強した。学校の統廃合が進んでいないということについて, 子を持つ親としてすごく気になった。教育環境の充実は, このまちで子どもを育てたいという思いや, 「旭川に住みたい」という思いにつながる。未来のため重要なこ

とだ。保護者それぞれのことも大事だが、今の子どもや未来の子どもにとっては何がベストなのかを考え、将来を見据えて統廃合を進め、等しく教育を受けられるように進めてもらいたい。

【委員】

若い方と接する中で、若い人や子どもがわくわくするまちであってほしいと感じる。旭川市はポテンシャルのあるまちだと思っている。動物園や買物公園に取り組んだように、新しい取組にも力を入れてほしい。今回の行政評価のように既存の取組を見直し、若者が楽しいと思えるまちづくりなどの新しい取組につながっていくとよいと思う。

【委員】

一人の市民として、このように意見を言う場に参加できたことはよい経験になった。委員の役割の一つとして、他の市民にも関心を持ってもらえるように、こうした取組や機会について伝えていきたいと思う。

【委員】

事前の説明等があったことで理解が深まり、評価に取り組むことができた。多角的な視点から見ることの大切さを感じた。

【会長】

行政評価についてはこれで終了となる。次は、旭川市行財政改革推進プログラムの改訂を予定している。大きなテーマとなるが、引き続きよろしくお願ひしたい。

【全委員】（了承）

(3) 閉会